

令和6年度 第1回・岡山県地方独立行政法人評価委員会 議事概要

1 日時

令和6年5月15日（水）14:00～16:00

2 場所

岡山県庁（岡山市北区内山下2-4-6）

3 出席委員

萩原委員長、小田委員、清水委員、秋山専門委員、桑原専門委員

4 議事

- （1）地方独立行政法人法の改正（年度計画廃止関係）への対応について
- （2）公立大学法人岡山県立大学の第3期中期目標期間終了時における今後の法人の在り方について
- （3）公立大学法人岡山県立大学 第4期中期目標の検討について
- （4）公立大学法人岡山県立大学 役員報酬規程の一部改正について

5 補足事項

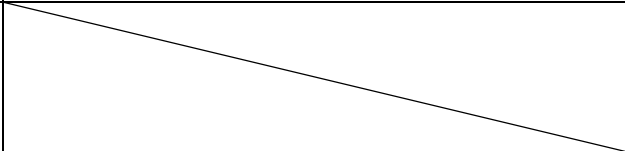
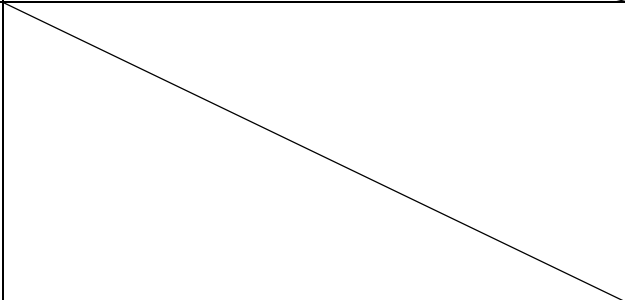
上記4議事（2）について、第3期中期目標期間における取組で一定の成果を上げており、引き続き人材育成や地域貢献などに取り組む必要があることから法人に業務を継続させ、第3期中期目標期間における課題とされた事項については、第4期中期目標へ反映させることとされた。

6 内容

総務学事課から説明後、質疑応答

委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
令和6年度から年度計画の策定・評価を実施しないとなっているが、今年度は昨年度と比べて開催回数が増えているのはなぜか。	今年度は、次期中期目標と中期計画の策定の関係で評価委員会を予定しているため、昨年度よりも増えている。前回6年前に中期目標と中期計画を策定したときには、6回開催していたと思う。前は年度評価と次期中期目標・中期計画の策定を同じ年度に行ったので、6回開催していたが、中期目標・中期計画の関係では、前回も5回程度の開催だったと思う。
第4期の計画を新たに作る年度だから昨年度よりも開催回数が多いということですね。	回数が増えたのは、今回、年度計画の策定・評価は廃止したが、次期中期目標・中期計画について審議していただくために、今年度は5回開催する予定ということである。来年度は、第3期の中期計画を評価していただく必要があるので、評価委員会を開催する必要があるが、年度計画の策定・評価が廃止されているので、開催回数自体は前回よりも少なくて済むと思う。
令和8年度だと、途中の評価がなくなるので、開催回数がもっと減るということか。	今のところ、令和8年、9年、10年は開催しなくても良いのではないかと考えている。
一期は6年と決まっているのか。	本県の関係では、大学は6年だが、病院は

	5年とされている。
そもそも、なぜ6年なのか。	地方独立行政法人法上は、地方独立行政法人の中期目標期間は原則3年以上5年以下だが、大学に関しては同法で6年と別に定められている。
	国立大学も6年。機関別の認証評価は7年以内である。
	機関別の認証評価は7年以内に受験する必要がある、各大学は6年から7年ごとに受験している。
看護師や助産士、管理栄養士、社会福祉士といった資格の試験はどのくらいの方が受けているのか。	看護師、管理栄養士は、基本的に受験対象の学生全員が受けている。助産士は、希望者や受け入れ側の教育の面もあって、5名前後が受けている。社会福祉士も受験対象の学生ほぼ全員が受けている。
これだけ頑張られているのだったら、すごく優秀ではないかと思う。	中期計画策定時に設定している目標を、下回る年もあるし上回る年もある。下回った年は何かしら教育に支障があったのではないかとということで、一応いろいろ検討はしている。例年、通常のカリキュラムに沿った教育以外にも、補講を行ったり対策講義を行ったり、外部の機関による模擬試験を繰り返し行って、例えばある成績以下の学生を集めて別途教育したり、ということはやっているが、なかなか難しい。
これだけ合格されているのは優秀だと思う。	
スチューデントアシスタント制度が始まった様だが、この制度は学部により実施されるのか、それとも全学部がこれから取組を始めるということなのか。	数年前、この中期計画期間中に制度を設けて、ここ1、2年で動き出した。明確な成果は出ていないが、私の個人的な感覚だが、例えば実験実習があるが、そこでSAとして手伝っていただいて、指導する側もすごく勉強になっているので、そういったところで教育効果も出ているのではないかと思う。
人に伝えるというのはすごく勉強になると思う。人間的にも向上するのではないかと思うので、良い勉強になると思う。	
資料2の年度評価、見込み評価結果の表について、「終了時見込み」というのは、令和5年度と考えた方がよいのか。それとも6年間全体と考えた方がよいのか。	6年間終わった時点での中期計画の達成状況の評価している。6年間終わった時点でこれくらいになるという見込みの評価。実際6年間終わった後で、来年度、中期目標期間評価というものを実施するが、それは完全に終わった後で振り返って評価をする。それをする前に、4年間終わった時点での6年終了時点の達成見込みを評価している。

何で令和5年度の表がないのか。	令和5年度の評価は、制度改革がなければ、今年の7月に評価を実施していた。今は令和6年度なので、令和5年度が3月31日で終わり、県大が実績を取りまとめて、例年だと7月に評価を行っていた。現時点で確定している年度評価というのは4回分になる。
何でこういう質問をしたのかというと、評価3が終了時見込み評価には42あって、平均にしては、ぽこっと出すぎているので、なぜかと思った。	
コロナ禍で制約があり、やりたいことが十分できていない。令和5年度は玉虫色の一年だったが、令和4年、5年、6年で本格的に、教育や研究などいろいろなことが現場で思うように活動できるようになったと取れないこともない。ましてコロナ禍明けの5年、6年だから。特に見込み評価で2が減っている。	
議事2については、第3期中期目標を概ね達成しているところもあるし、引き続きやっていかなければいけないということなので、4の検討結果として引き続きというところは、この資料だけだと当然そうなるかなと思う。 そもそも論として、県立大学の意義、必要性を、次の第4期目標に関わってくるのかもしれないが、何のために県立大学があるのかということ、常に県総務学事課、それから執行部隊である県立大学は考えながら進めていくべきだと思っている。そのなかで、地域貢献がミッションだと常に言われている中で、例えば、県内の事業所が求人をかけても人が来ない、何とかしてくれ、地場産業が潰れてしまうぞ、という要請に応えるためにやっているのか、あるいは、教育県として教養の高い県民を育てていこうじゃないか、岡山県はそういう県なんだということやっていくのか。昔をたどれば、県内の栄養士さんや看護師さんを育てる機関も少なかったというところでやってきて、今もその役割は果たしていると思う。一方で、少し厳しい言い方だが、情報やデザインは県内に就職先が少ないことなどもあって、県外に出ていってしまうと県立大学でそもそもやる意味があるのかということも少し頭をよぎってしまう。県内の高校生の進学先として県立大学を選び、卒業生が就職先として岡山県内の事業所等を選ぶというところを引き続き	県として、今おっしゃられた極端な例ではあるが、秋田県の国際教養大学の話だと思うが、手元の資料で令和3年度で少し古いですが、国際教養大学の県内就職率は5%。この資料で申し上げると、県大は54%程度でこの数字は決して低くはない。単科大学で、例えば、医科大学とか看護大学では県内就職率は高いが、それ以外の複合的な大学でいうと、そんなに低くはない。建学の精神が守られているのではと我々は認識している。今後も、当然県が出資している大学であるので、おっしゃられたように県内の高校生が目指す大学であり続けたいと思っている。18歳人口が減っていく現実の中で、公立大学の数自体は増えているので、難しい問題であるという認識がある。ただ、存在意義として、概ね50%以上を保っていききたいという目標を立ててやっているの、その辺りは満たされているのかなというのは今のところはある。おっしゃられたように、就職先が少ないという問題について、大学が就職先をつくることはあり得ないので、学部の再考が必要になるときが来るかもしれないことも認識しているところではある。

求めていくのか。秋田県のやり方かもしれないが、グローバルに人材を受け入れてグローバルに出していくというやり方もあると思う。

今回第4期の中期目標の方向性を見たときに、やはり相変わらず地域地元就職させるという様なことになっているので、今度は手段がどうなっていくかということになるかと思うが、どういうポジションを狙っていくかというところは、学長も心の内に決められていることがたくさんあると思うが、一方で総務学事課としてどのように考えられているのかというところをお伺いしたい。決して誤解のないように、「いないよ」と言っているわけではない。

実は、医療の現場では、公立病院、岡山市民病院はいるのかという話はよくある。岡山市内に日赤、済生会、労災、国立など多くの病院がある中で、市民病院は必要なのかという話があった。県内でも、井原市民病院をどうするかといった様なプランがあったと思う。公立の病院を減らしていこうとしたところにコロナがあったので、公的医療機関は必要だという話になった。高等教育機関においては、どのような考え方で、これから子どもの数が減っていくのは確実だが、どう考えられているのか。もしよろしければ、県と学長の思いを聞かせていただければありがたい。

そのあたりも踏まえて、いろいろ考えられているところだと思う。大学院のデザイン学研究科の定員充足率が低いということも、募集人員に対してということだけだと思うし、必要な人材を輩出していると思っている。また、おっしゃられたとおり、逆にいうと、インターンシップの数や県内就職率など目標が高いのかもしれない。県内の大学から県外に就職する学生はたくさんいらっしゃる。就職先は学生が自由に選べるが、そうした中で頑張ってくださいっていると認識している。

県の方が、いろいろと第4期、どういうふうにまとめていくかということ、今のお話のような形で進めてくださっているので、県大として、どのように一緒にやっていけるのかということだと思う。おっしゃるとおり、この後の資料5にも出ているが、公立大学が国立大学より数が多くなって、今もう102校あり、おそらくますます増えていく。公立化を狙っていらっしゃる私立大学もある。そうすると、元々公立大学として早くからある大学、かつ、それが総合大学であるならば、国立大学と同様に大きなことができるが、我々は3学部しかない複合大学であり、どういう風に生き抜くかということが、次の第4期では非常に重要になってくる。一番困っているのが、学内の先生方がそれにあまり気づいていられない。昔の公立大学の良かったときのことを経験されているので、これでいけるという安心感がある。逆に、その

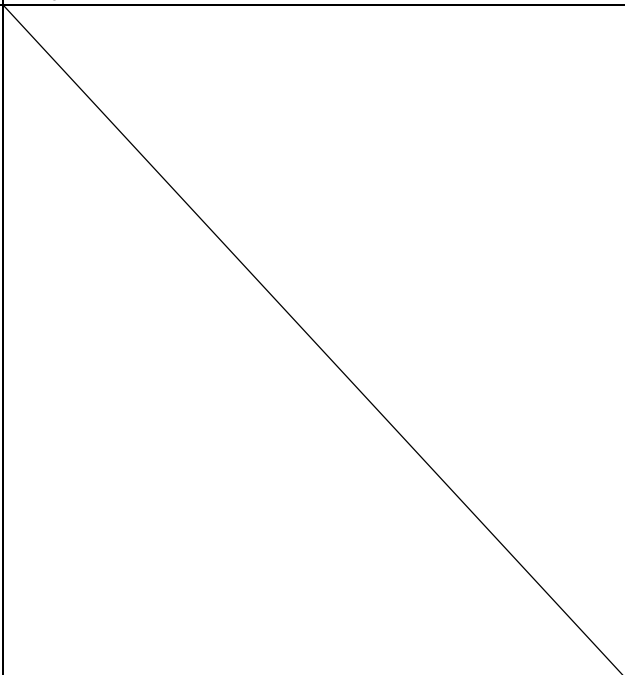
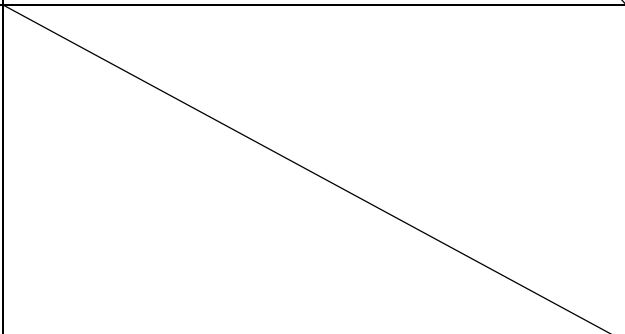
	ままだ何かいけるのではないかとそういう希望もある。本当はそうではないと教育はできないから、落ち着いた感じにしたいが、そういうこと言っていると、今問題になっている志願倍率が下がるとか、いろいろと皆様との社会連携、研究等が下がっていってしまう。ここのところを、どういうふうに第4期に向けて皆さんが気づきながら、選ばれる大学にするにはそれだけエネルギーを投資しないといけないという、そこを一致団結できればありがたいなという気持ちがある。そこは、やはり県の皆様と一緒に考えて動いていかないと、例えば、今お話があったように、県立大学は県内就職率が全国の公立の平均に比べたら高いが、でもまだまだこれではと皆さん思っている。そのときに、大学だけでできる範囲というのにも限られている。そうすると、企業の皆様、地域の方が、何かこういうことをすればもう少し上がるのではないかと、そういうご提言もいただき、実際に動いていただかないと伸びない、というジレンマがある。こういうところを一緒に解決していかないと、第4期、大変なことになるのではないかと、思っている。だから、公立大学のあり方をもっと真剣に考えるべきだと思っている。
学生にいろいろなアンケートを認証評価の際にされたと思う。学生の声というのは、本当に正直。学生アンケートの学生を今後改革や改善にどのように反映させていけるのかというところを教えてください。	これは私の見方だけで少し違った視点からの見方もあるかもしれないが、私が県大に伺って7年経っている。最初に伺ったときは、県大生というのは真面目できっちりと言われたことは完全にしてくれる。非常に皆さん真面目でいい学生さんを輩出してくれてありがとうございます、と企業の方に言われている。それは私も認めてはいるが、あまりにも優等生すぎて、自分から自主的に動く学生が、数としてはそう多くないように見受けられた。というのは、私は岡大で結構やんちゃな連中ばかりの中にいたので、どうしても比較すると、大人しいなという感じはしていた。それで、私がこちらに伺ったときに、学生ファーストの視点でという形でいろいろとご一緒させていただいて、「吉備の杜」、いろいろ社会貢献のプログラムもできる副専攻も、担当の先生からもかなり力を添えていただいたということで、結構学生の方から自主的に動き始めている。それがやはり認証評価で、課外活動等で活動をよくやっている

	じゃないですかという評価を受けたのではないかと思っている。どんどん学生の方が、先生より先に進んでくれていると私は見ている。そこをもう少し先生方がサポートする体制を自らやったださる、そういう先生もたくさんいらっしゃるが、まだそこに気づいていらっしゃらない先生もたくさんいらっしゃる。そのところで結構うまく抱き合わせで、学生たちも満足していくのではないかなと考えている。私が外から来て感じたということなので、元々中にいらっしゃる先生方はまた違った考え方を持っていらっしゃるかもしれませんが。
	私も1年間しか経っていないのでそれほど詳細なことはわかってないが、一応手続き的なところで申し上げると、学生へのアンケートは基本的に入学時と一月ぐらい経った時と2回ぐらい新入生に対してアンケートがあって、どういう希望を持ってきたかとか、現在の学生生活についてまず聞いている。それからもう一つは、授業改善アンケート、岡山大学は授業評価アンケートで少しポジティブな名前で私はこちらの方が好きなのですが、そういうのをやっていて、各講義に対して、あるいは授業に対して、学生がどう思っているかということを集めている。それから、最後にこれも他の大学もやっていることだが、卒業時のアンケートがあって、それは全体として4年間、あるいは大学院2年間過ごして全体としてのカリキュラムがどうだったかということは、聞いている。細かいところまで私も全部は把握していないが、概ね学生は満足しているとおっしゃっている学部と、ちょっと満足度が低いという学科もないことはない。その辺のところは、学内の評価委員会などを通して、改善のテーマを見つけて、適宜改善いただいているという状況だ。基本的には他の大学もやっているような一通りのことはやっている。あと、多分現場の先生方は、生で学生さんの反応を把握されていると思うので、授業での改善などはされていると思う。ちなみに、昨年度私も大学院の授業を少しだけお手伝いしたが、そのときの感覚だと、割と実践的なことをやると、面白いという学生と、ちょっと大変だったという学生と2通りおられた。今年度も事情があって、私が少し手伝う科目があるが、そのあたりの落

	とし所をどうするかということをし少し考えている。 社会連携教育を担当している。特に副専攻という主専攻とは違うもう一つの吉備の杜を担当させていただいている。学生の反応というか、満足度の観点からいくと、主専攻とはまた違って、社会人としての基礎的な力を身につけるための副専攻をすごく良かったと評価してくれる学生と、やってみたが、すごく大変で主専攻の方をやるのが精一杯でこんなことをやっている暇はありませんという、その二つにぱかっと分かれている。頑張っている学生にとってはすごく良い制度ではあるが、能力的、時間的、いろいろな意味で若干不足している学生にとっては、こちらが強く勧めると逆に負担になる。我々としては、全部の学生に対して価値のある副専攻にしていきたいので、どういう形にしたらいいのかなというのが、次の第4期でいろいろ変えていかないといけないと思っている。学生生活アンケートで、副専攻に関するアンケート項目を入れてもらい、回答を見ているが、そういう結果が出ている。特に、こうしたらいいという案はすぐには浮かばないが、そのあたりを反映していかないといけないと思っている。特に、岡山を知ってもらうということを題材にして、社会人基礎力を身に付けていこうという副専攻になっているので、県内への就職の魅力ということも、皆に感じてほしいというところもあるので、できるだけ全員の学生に受けてほしい。強制的に県内に就職してくださいという訳にいかないので、魅力を発信することによって、県内就職率に繋がればということもあるので、全員の学生に満足してもらうにはどういう形態にしたらいいのだろう、というのは今検討中である。実際、私は現場で授業を担当しているが、学生の気質が年々変わってきていて、割と諦めがいいというか、執着しない。例えば、私たちの頃は単位を取らなければ、というのがすごくあったが、最近の子は割と簡単に諦めてしまう。もう来年取りますと。いやいや、もう少し頑張れば取れるよって言っても来年でいいですか、そういうことを割と簡単に諦めてしまう。どこから来ているのかよくわからないが、それは担当していて、すごく感じるころではある。 アンケートをもとにというご質問ですが、
--	---

満足度調査を2、3年生時で行っている。毎年ではなかったと思うが、まだ数年しか経っていないので、データベースとしてはあまりないが、会議で拝見させていただくと、学部によってまちまちだが、講義に対する要望は多い。講義の中でこういうことをしてほしいというテクニカルな意見がある。また、自由アンケートでは、食堂のメニュー、J Rの時間帯を変えてほしいなどの要望が目につく。個人的に思っているのは、特に保健福祉学部、私は栄養学科にいたので、国家資格を取るということでカリキュラムがギュウギュウ詰めで、どうしても教員側から学生にということで、一方通行が多い。それでアップアップになって、学生の主体性というか、そのあたりをうまく汲み取れていないという印象がある。おそらくそういったこともあり、卒業後いろいろなところで頑張って活躍してくれているが、どうも県大出身の卒業生がある職場の上の方の立場になかなかいけないということも現状として聞いている。そうしたこともあって、学生のときからできるだけ主体的な取組をさせてあげたいと思っている。数年前からアドバイザーミーティングを本格的に実施している。これは何かと言うと、1学年で数人の学生を1人の教員が見て、前期・後期で面談をして、学習状況あるいは生活環境等について、ディスカッションするという場を設けている。そうした中で、最近は1人ひとり、マンツーマンでやってくださいということになっている。そこで感じることは、学生はそういう環境ではないとなかなか物が言えないというか、一対一になると結構いろいろ要望やしたいことを言う。これはアンケートにあったが、自分たちの要望をもっと受け入れてほしいということで、学内に目安箱を置いてくださいという要望があった。今、残念ながら目安箱を置いていないが、そういった個人の要望を大学として受け入れてほしい学生がいるというのを何となく感じている。ある学生も勉学で悩んでいるところを、我々に言いにくくて、学生相談室というところを紹介してあげると、どんどん改善されていったというのも身にしみて感じている。学生とのコミュニケーションをもっともっと密にして、学生の主体性をどんどんこちらから盛り上げていくというか、そういうことも

	大事だと思うので、次の中期目標に何か上げていけたらと感じている。
アンケートは、認証評価など外部に向けてのものだと、数値的にはほぼ満足しているというふうに出てくるのは分かっている。改善は、大体できていると捉えてしまうのではなくて、そういう一部の不満に目を向けなければ、そのアンケートの意味はないのでは。数値的には全体の満足度が高いのではほぼ教育がうまくいっているということで、認証評価の根拠としてはいいと思うが、今後さらに良くしていくときには、やはりその一部の不満とかやや不満というところをすくい上げていかないと多分改善点は見つかってこないかな、と思っている。学生の声というのはこれから改善のときには本当に重要になってくると考えている。	
3期の課題の中から、特に①と⑦の2つを重点としていращやる。できるだけ数値目標などを掲げて計画を策定されると思うが、他のところは割と数値になりやすいが、③は抽象的なところがある。この辺りは、どのようにお考えになっていくのか。⑥の情報セキュリティの強化について、第3期では大きな課題として残っている(項目としては中期計画の37番)。現在この4年間の中ではまだ達成できていないということだが、5年目、6年目はどうなっているのか。4年というのはコロナの時期になるので、その後どうなったのか。セキュリティの強化となっているが、何を具体的に課題にされようとしているのか。	③大学の魅力を高め、選ばれる大学となるような取組の推進についてだが、目標については、数値目標で表す定量的な目標と数値目標ではない定性的な目標のいずれかにはなるかと思う。それについては、中期目標というより中期計画の話になると思うが、どういう目標を立てていくかというのはこれから考えていく。一つ考えられるのが、今③に関連して一般前期入試での志願倍率を定量的な目標として掲げていて、目標3.2倍にしている。目標を3.2倍とするか、それより下げるか上げるかというのはこれからの議論になるかと思うが、そういったものが掲げる目標の一つとしてはあると思っている。
志願倍率も、全体の志願倍率の状況は出てきているが、おそらく学部によりバラつきがあるのだろうと思う。各学部の状況が分からないが、低いところをどうするかという検討をするのかと推測する。	
7月22日の第2回評価委員会では、令和5年度業務実績の中身を見るのか。	例年だと、そこを年度評価ということでやっていたが、廃止することとしたので、今回は、県が作成する中期目標の事務局案ということで目標を提示して議論しようと考えている。
ちょうど端境期だ。中期目標6年間の状況はつかみきれずに4期の計画づくりに入るが、端境期だから仕方ない。	
前回も情報関係は費用がかかり、と言われていたが、どこまで進んだのか。昨年度までだと、まだ途中ということだったが、5年、6年では進展しているのか。それとも、	お手元の資料4の29ページの[37]の評価時の観点も書かせていただいているが、ガイドラインの策定は終わっていて、学内ネットワークシステムの更新が入札

相変わらずまた情報セキュリティに関して大きな課題として残っているのか。	の関係でなかなか進まなかった。これは最終年度の今年度中には何とか更新できる見込みということで今進んでいるが、ネットワークの更新が今年度中かかってしまうと、更新した上で再度のガイドラインの見直し、情報発信・共有のルールの見直しが第3期の期間中にはできそうにないということで、見込み評価に2という評価をつけさせていただいた。ここはどうしても次期計画への引き継ぎ、持ち越しになってしまう。ただ、ガイドラインがないわけではなく、ネットワークを更新したときに、そのまま使えるものなのか、見直しが必要になるものかも含めて検討作業が残ってしまう。情報セキュリティは以前にも増して、いろいろな危険が増えているので、大学の中でも情報を扱うそれぞれのレベルに応じて、どういう取り扱いとするのかを、その都度見直していく必要があると思っている。そのため、情報セキュリティは次の計画でもしっかりと取り組んでいかないといけない課題になると認識している。
第4期の中では生成AIについて、全く触れないということにはならないと思う。教育機関の中においても、この扱いをどうするか。学生がレポート書くこともそうですが、第4期の中では、施策として触れるのか触れないのか。触れなければならないと思う。ハードの整備、それからソフトでシステムのこと、新たにまた厄介なテーマがおりてきているので。話題に出始めたのが去年の初めごろかと思いますが、今年にいたっては、いいも悪いもない、どう活用して効率化していくか、どうレベルの高いマネジメントに、成果につなげていくか。それを人間が使われるのではなくて、使いこなせなければならない。ぜひ、その辺りも第4期の中ではご検討いただき、盛り込んでいただきたい。学生たち関心が高いと思う。	
先ほども少し触れさせていただいたが、学長からこれまでの成果とそれから今後こういうふうにやっていきたいというお話を伺ったところなので、この第4期中期目標の方向性については、第3期を踏まえてということでこういった流れになるだろうと思う。一点注文を付けるとすると、これは大学というより総務学事課かもしれないが、長期的に見たときに、県立大学の役	

割のあり方というのは、学術振興と地域産業の振興が目的にあるかと思う。県がやっているからこそ、総務学事課の教育セクターというところだけではなくて、産業振興セクターと連携しながら、先ほど学長の話もあったが、県内就職先を増やしてくれとはいっても、受け入れ先がなければどうにもならない。そういったところと連携を取るようなビジョンを描かなければならないだろう。先ほど部長がおっしゃいましたが、新しい生き活きプランの中で、県立大学はこういう役割がある、というのを明確に目標を立てていただいた中で、中期目標・中期計画が出てくると思うので、そうすると県大の先生方も動きやすいのかなというふうに思う。

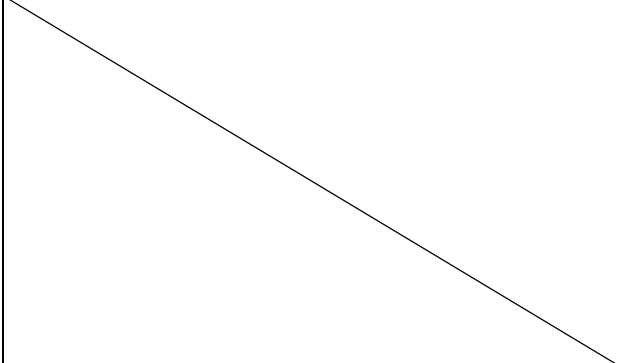
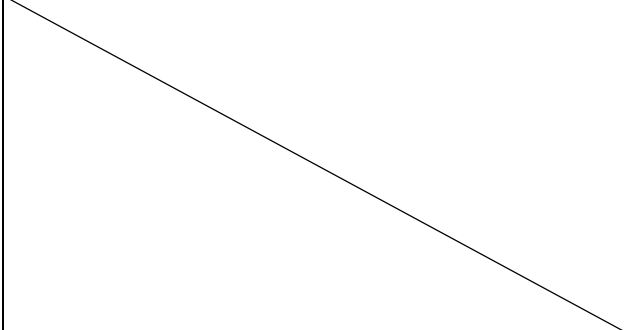
一方で、大学は大学の中で、県がどうしても私はこうやりたいというところも出していってもよろしいかと思う。大胆な例で、例えば岡山県には県立大学があって、もちろん県内にも他にも公立大学ある。鳥取県には公立の鳥取環境大学があるが、公立大学法人同士で何か連携するようなプランってないのかなと考えたり、でも広島にはちょっとかなわないなと思って東中国で頑張るかなとか、兵庫県をちょっと取りに行くかとか。長い目で見ると面白いことを考えると、国立大学が今、交付金を減らされてどんどん厳しくなっている中で、割と動ける公立大学同士の連合が強くなっているぞ、みたいな。そのあたりは総務学事課の仕事の一つかなと思ったりもするので、県立大学の将来を考えて先ほど申し上げた通り必要なところをしっかりと頑張っていたらと思う。その中で地域貢献に係る目標の方向性も触れていただく。これまでやってきたことを繰り返していただく、微調整で改善していくだけではなくて、そうすると働いている先生方もやりがいが出てくるのではないかなと思うので、ぜひよろしくお願いします。

委員の今のお話は、私はもう企業人でずっと仕事をしてきたので、競争の原理の下、いろいろな技術開発とか、マーケティングのやり方とかということが開発されてきている。優勝劣敗なくして日本国の発展もないと思う。そういう意味では、教育という場面においても、ある種競争激化の状況において、優勝劣敗が激しくなってくると思う。だからこそ、特徴を持った、差では

吉備の杜が令和6年で終了するので、自走化に向けて考えているところだが、今、おっしゃってくださったことを一生懸命考えている。だから、今日のお話を非常にありがたいと思って伺っていた。

なくて違いをつくる。県立大学としても、何か尖った特徴をもっともっと、3学部でそれぞれの中での尖った特徴をつくってほしい。これまでにインフラは整備できたと思うので、ここから第4期はすごく大事な競争、私立も公立もなく、教育機関で切磋琢磨していく。もちろん学費など細かいこともあるが、この大学に行きたい、アルバイトしてでもここへ行きたいとか、公立だからいくら時間があってもっと勉強したいとか、とにかく特徴を作ってほしいなと思う。レッドオーシャンとブルーオーシャンという言葉があるが、ブルーシートも、もう7割が輸入品になった。かつては7割シェアをもっていたが、今は3割弱。だからこういう競争、優勝劣敗の中でどう生き残るか本当に必死。危機感の中でアイデアが出てくると思うので、いい意味で学長おっしゃるように先生方もいい意味の危機感を持っていただいてやっていかないといけない。失礼な言い方になるかもしれないが、我々企業は潰れてしまう。路頭に迷う。そういう危機感の下、優勝劣敗で切磋琢磨してやっているの、そういう考え方もぜひ持っていただきたい。ぜひ改めて特徴を磨いてほしい。いたずらにここから学部を増やされる必要はないと思うし、女子大学が総合大学になったり、短大が4年生大学になったり、そういう意味では逆に汎用化してきているので、その中でどう特徴づけるか。今、委員がおっしゃったような鳥取と組もうとか、何だったら岡山県が鳥取県と一緒にしてもいいじゃないかと思うが、アグレッシブな考えをぜひ持っていて第4期をお作りいただきたいと思う。それから、今、中小企業は人が来てくれない。地元企業はいろいろなテーマを持っているので、そういうことを各商工会議所と連携する。まずは、商工会議所のメンバーでどういうテーマを持っているか、それが県大で何かサポートできることがあるのではないかと、そういう能動的なこと、我々で言うとマーケティングでパブリシティの向上をしていって、県大の応募率を高めていくとか、そういうことも必要だ。もっと積極的でポジティブなマインドを持たれたらいいのではないかと思う。学生たちがいい子で大人しくて、というのは、とても大事な大学文化であると思う。今更否定する必要もない。こういう

良い文化がある中で、さらに、少々失敗を恐れずにやっていくとか、もっと留学してもいいと思うし、企業のインターンシップでもっともっといろんなことをやりたいとか、アグレッシブな文化をプラスアルファしていったらいいのではないかと思う。	
資料5の1に、「現代社会におけるデジタル化の加速度的な進展」、「産業構造を抜本的に改革する部分を変革するだけでなく、社会構造のあり方にも根本的な変化をもたらすことが想定される」と、大上段に構えているにもかかわらず、その内容を見ると、例えば資料4〔2〕に「データサイエンスA Iカリキュラムに準じた事業内容の整備」、13ページの「コロナ禍の影響を受けて大半の授業がオンラインでの開講となる中で、システムやツールの整備、手法の工夫より云々」、それから26ページ〔31〕の「コロナ禍による活動が制限されたものの、オンラインで実施できるグローバル教育のプログラムを企画・実施し」、29ページ〔37〕の「ICT環境を活用した情報発信・共有のルール作り」、35ページ〔47〕の「大学案内とウェブサイトのリニューアル」、これが大上段に構えたところでの内容かなというふうにお見受したが、ここまで大上段に構えたのであれば、教育分野でのデジタル化、研究分野でのデジタル化、さらに組織運営のデジタル化を、大々的に打ち出す必要があるのではないか。例えば、教育のデジタル化については、オンライン授業やデジタル教材の導入。これは、岡山市の小学校がデジタル教材を一斉に導入したというのをニュースでやっていた。そうした取組や、研究のデジタル化といった場合にはI Tを活用した研究の推進やデータ駆動型の研究、業務運営については、業務プロセスのデジタル化や情報システムの導入など、このあたりをもっと具体的に目標に盛り込む必要があるのではないかと思う。ちょっと大上段に構えた割には、薄いという気がしている。認識はされていると思うので、もっとそれを具体的に砕いて目標に入れた方が良い。	そういうことも踏まえて、次回の評価委員会では、どういったことが考えられるかということをしっかり考えて、またご意見をいただければと思うので、よろしくお願いします。 委員からおっしゃっていただいたことは、今はまだ目標が決まっていない段階ではあるが、我々は具体的にどう進めるかを考えさせていただいている。今おっしゃられたこと全部を網羅して、ディスカッションしている。ただ、それをどう目標に入れたらいいのかっていうのが、やはり県と一緒に考えていかないといけない。あまりにも突飛なことを目標のところでポンと出してしまうと、6年後に自らの首を絞めることにつながりかねないと皆さんにご心配していただいている。我々としてはしないといけないことを前に出したい気持ちはすごくあるが、やはり国立大学と公立大学で違っており、国立大学は文部科学省が自らやれることをどんどんしなさいと言ってくださるが、我々はそういうわがままはちょっとまだという状況。そのところをバランスよく、県とご一緒にさせていただくということを進めている。
パラグアイというブラジルの横の小さな国でコンクリート補強ファイバーを作っているが、うちの社員が社長で行っている。パラグアイはスペイン語、ブラジルはポルトガル語。それで英語圏の7か所に孫	私も県大で講義の一端を担わせてもらい、レポートを見て採点したことがあるが、おっしゃる通り、生成A Iを使って回答を作られたと思われる学生がいらっしまった。一言一句順番も変わらず回答された方もい

会社の社長がいるので、英語とスペイン語、ポルトガル語で2時間半の会議をした。それを、英語とスペイン語、ポルトガル語、日本語に翻訳してA4にまとめなさいと言ったら、やってくれて、2枚、3枚になった。そういうところからやっていこうじゃないかと。AIの活用ができるかできないか、トライ・アンド・エラーでどんどんやっていったらいいと思う。そうしないと、検討しますだけでは本当に出遅れると思う。県の仕事もそうじゃないかと思う。	る。ただ、使いこなすという面ではまだまだ工夫の余地があるのではないかなと思う。それを教える側として、一歩先んじて知っておかないといけないという部分もあるし、行政としてそれに騙されないようにもやらないといけないし、いろいろな課題がある。我々もシステムを導入するときに、プロポーザルという提案型の契約方式で世の中にどのようなものがあるのかというのを見ながら決めさせていただいているので、その辺も含めて行政システムもこのAI化でだいぶ変わってくると思う。効率化によって人員が余る部分を、行政サービスの方に割いていくことが必要になっていくのかなとは思っている。大学も人間を育てるところなので、そういった部分で我々も勉強させていただけたらと思っている。
県大の予算も限られた中で、機器などのハード面もそうですが、ソフト面の対応として雑費、諸経費の枠は設けておいたほうがいいのではないかなと思う。令和7年だと調査費だとか、実際には8年、9年ぐらいからずっと経費が出てくると思う。企業でも来期の予算でそれをどう組めばいいか考えているところだ。まだ漠然としているが、何か事例が起こるごとにやらざるを得ないかなと思う。	
デジタル化の加速度的な進展ということだが、今朝のニュースで、検索サイト運営会社が、相談者の相談を後ろでビデオを撮っておく。そのビデオをパソコンの検索窓口に置くと、内容をAIが判断して、こういったアドバイスがいいのでは、というのをワットと文章で教えてくれるようなツールを開発したらしい。もうすぐにそういうことができるようになると思う。	
大学の魅力を高め、選ばれる大学となるよう取組を推進ということだが、この資料4を見ると、15ページに退学者と休学者について令和4年度は評価3になっているが、非常に休学された方が多い。休学された方は復学したのか、お辞めになったのか。コロナ禍が原因かとも思うが、学部偏って休学が多いのか、何か資料はあるか。また、復学され方には、どのように対応されたのかもお聞きしたい。さらに、見込み評価が4になっているが、令和5年度は良かったということか。	私のところに回ってくる資料を拝見すると、時代とともに休学者・退学者の様相が変わってきている。昔はデザイン学部が多かった。自分の目標がここでは達せられないので、辞めるという形が多かった。最近では、デザイン学部が一番先生も学生も時流に乗っている感じがしていて、そのためか、休学・退学がかなり減ってきている。少し危惧しているのが情報工学部。こちらの休学・退学が少し増えつつある気がする。いろいろ学部の方でご検討いただいていると思うが、逆に言えばこれだけ情報学というものが拡散してしまっ大

	学で何を教えてどうなのというところが、学生さんが思っているところと我々の意図するところがマッチングしてないとか、いろいろな問題が出てきている。世間の動きがそういうところに反映されているかなというふうにも見ている。それから、休学をして進路変更で退学という方もいらっしゃるし、少し休んでからもう一度やろうという方もいらっしゃるし、これはそれぞれの立場があるということだが、退学されるのは、進路変更が結構多い。ここの学部ではもうこれ以上学べないという方が結構はっきりと意思表示をして退学される。それはそれで多様性を求める学生さんなら致し方ない。4年まで行くより早めに変更された方がいいのではないかと私自身は思っているので、そういう目的を持っていいらっしゃる方はあまり心配ない。ただ、メンタルな形で病んでしまわれて、それで学業を続けられなくなって大学に来られなくなるという方もいらっしゃる。そのような学生は、大学としてフォローしなければならず、難しいところであり非常に複雑なところだ。
--	---